大仙市教育研究所 所報
けやき
第15号　2019年3月5日発行

飛躍知の育成
～「ソサエティ5.0」と大仙教育メソッド～

大仙市教育委員会　教育長　吉　川　正　一

「ソサエティ5.0」

「ソサエティ5.0」とはこれまでの社会（Society）を，狩猟社会（Society1.0），農耕社会（Society2.0），工業社会（Society3.0），情報社会（Society4.0）とし，新たな社会を目指すもので，第５期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されたものである。

「ソサエティ5.0」は例えば以下の社会とされている。

・IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり，新たな価値がうまれる社会
・イノベーション（技術革新）により，様々なニーズに対応できる社会
・ＡＩにより，必要な情報が必要な時に提供される社会
・ロボットや自動走行車などの技術で，人の可能性がひろがる社会

文部科学省のSociety5.0に向けた人材育成に関わる大臣懇談会と新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース（専門委員会）は，これまでの議論を「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～」（H30.6月）にまとめ公表した。

これによればSociety5.0において求められる人材像は以下のように考えられている。

・技術革新や価値創造の源となる※**飛躍知**や発見・創造する人材と，それらの成果と社会課題をつなげ，プラットフォーム（基盤となるハード・ソフト）をはじめとした新たなビジネスを創造する人材

また，Society5.0における学校は以下のようになると予想している。

・一斉一律の授業スタイルの限界から抜け出し，読解力等の基礎的学力を確実に習得させつつ，個人の進度や能力，関心に応じた学びの場となることが可能となる。
・同一学年での学習に加えて，学習履歴や学習到達度，学習課題に応じた異年齢・異学年での協働学習も広げていくことができる。
・学校の教室での学習のみならず，大学（※**アドバンスト・プレイスメント**など），企業，ＮＰＯ，教育文化スポーツ施設，農山漁村の豊かな自然環境などの地域の様々な教育資源や社会関係資源を活用して，**いつでも，どこでも学ぶことができる**（ユビキタス・ラーニング）ようになる。

※飛躍知⇒未来を切り拓く多様な知識
※アドバンスト・プレイスメント⇒高校と連携し,生徒が本学の授業を受講すれば，入学後に単位として認定するしくみ

「大仙教育メソッドを支える教師力」

Society5.0における学校は，より弾力的な教育活動・様々な教育機関や地域との連携が強化された学校と言える。その視点で見れば，「大仙教育メソッド」は，多様な教育機関や地域とのつながりを重視した学校連携を推進するという点で，軌を一にするものと思っている。

したがって，これまでの連携をより充実させ，グローバルな視点をもって地域活性化に一役買える子どもの育成を進めていきたいものだ。そのためにも，「基礎となる力」「学ぶ力」「活かす力」のキーワードとなっている「思いやり」「たくましさ」「市民性」「習熟（基礎・基本）」「探究（探求）」「グローバル」「多様性」「地域に根ざしたキャリア教育」「ＥＳＤ」をより意識した学校運営を期待したい。

しかし，一方で支援を要する児童生徒が増える中にあって，「子どもにとっての学び」について再確認する必要がある。そのための指導のあり方の指針の一つとして，**「ユニバーサルデザイン」**を意識した指導を構築していただきたい。指導に当たってのポイントの中で，特に次の３点に注目したい。それは，**「学習のめあて，流れ，見通し」の見える授業，「指示したことの確認の徹底」，「何ができたか，できないか」を明確に評価できる授業展開**である。このことは，秋田の探究型学習にも通じていると思う。

不易流行…時代は変わっても，井上ひさしの言葉「むずかしいことをやさしく，やさしいことを深く，深いことをおもしろく」を心に留めながら，これからも笑顔で子どもたちに向かう教師を目指していきたいものである。

<理科：試行錯誤しながら学び合う児童>

<英語：生徒を引き付けるＡＬＴとのＴＴ>

ふるさと教育の推進

地域の遺産を子どもの財産に

大仙市立角間川小学校　教頭　藤倉　欣浩

平成28年度から10年計画で「角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業」が大仙市の事業として行われている。雄物川舟運の歴史を伝える建造物等を活かしてまちづくりを進めようという事業である。本校では，この事業を支えるのは子どもたちと認識し，事業と関連付けた学習を教育課程の中に位置付ける作業をスタートさせた。

まず今年度は何ができるのかを探る段階として，１・２年生は旧本郷家住宅の見学，３・４年生は本郷家の仕事や住宅のつくり等の調査，５・６年生は見学や清掃ボランティア等を行った。今までは塀の外から眺めていた旧本郷家住宅に入り，川を通した角間川と各地とのつながりや邸宅の素晴らしさに触れ，興味・関心を高めることができた。来年度は更に活動の幅を広げた学習へと結び付けたい。

この計画が終わる頃，子どもたちは高校生，大学生，社会人となっている。自信と誇りをもって角間川の素晴らしさを語れる人材になってほしいと願っている。

〈本郷家の大福帳を見て学習〉

ふるさと教育の推進

地域の活性化に向けて

大仙市立南外中学校　校長　佐藤　晋平

本校は，地域運動会等様々な場面で地域との連携を積極的に進め，南外に誇りを抱き，地域に貢献しようとする生徒の育成に取り組んでいる。

今年度は新たに，地域創生に向けて「南外の風土について，今できること，これからやりたいこと」をテーマに掲げ，地域の方々をパネラーに迎えてパネルディスカッションを学校祭の中で行った。

パネラーからは，「南外の各地で山菜を栽培する」「循環型産業としての農業を目指す」「地域の資源の再価値化」「緑の豊かさや人々の絆の強さ」といった南外のよさを生かす提案がなされ，フロアからは「自分たちにできることは何かを考え，地域のために取り組んでいきたい」といった感想が出された。

〈地域の方とのパネルディスカッション〉

学校からの発信は，地域も動かし，12月には南外若者会議が開催された。地域創生に対する思いを再認識し，ふるさと南外の未来を考える貴重な機会となった。

ふるさと教育の推進

未来の担い手を育てる地域活動

大仙市立協和中学校　校長　山本　暢三

２年生が行う５日連続の職場体験，詩吟教室，熊被害防止講話会，グラウンドゴルフ協会交流会など授業や体験，交流等で地域の方々からご協力をいただいている。更に体育文化後援会寄付金，アルミ缶や古紙回収へも全戸からご支援をいただいている。

こうした地域の思いに対する感謝の気持ちを伝えたい，少しでもお返ししたいと，今年度は生徒会で３大プロジェクトを実践している。その１「地域貢献ジャー活動」は，赤黄青緑橙の５色のコスチュームに身を包み，一人一人が地域でボランティア活動する。その２「あいサーズデイ運動」は，毎週木曜の朝に“あいさつ日本一”の旗を持ち，街頭やバス停等で住民などにあいさつする。その３「地域活性化アイディアコンテスト」は，住んでいる地区ごとの班でふるさと協和の活性化を考え提案する。

学校と地域に笑顔の花が咲き誇ることを願い，生徒会テーマ「笑顔繚乱」を掲げ春から活動している。ふるさとを学び，人との温かい交流を通して，明日の協和を担う生徒が確かに育っている。

〈羽後境駅での貢献ジャー活動〉

大仙市ＰＴＡ連合会の活動

大仙市PTA連合会11年目!

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　和田　英範

平成20年に発足して以来，「中学生サミットへのオブザーバーとしての参加」や「あいさつ運動のポスター作成」，年２回の研修会及び会報発行などの活動を継続してきた。今年度の研修会等の活動の概要は次のとおりである。

第50回日本ＰＴＡ東北ブロック研究大会秋田大会

実施日・会場	概　要
９月15日（土） ～16日（日）秋田市	分科会の運営及び実践発表，協議等 テーマ題 「地域文化がつなげる地域連携」

本市ＰＴＡ連合会研修会

実施日・会場	概　要
第26回研修会 11月16日（金） 大川西根小学校	・パイプオルガン教室参観 ・子どもの見守り，ＰＴＡ活動の課題についての協議
第27回研修会 ２月１日（金） グランドパレス川端	・児童生徒の学力等の状況について ・地域活性化に寄与できる子どもの育成に向けて ・講演　佐藤美知子 氏 （元ＡＢＳアナウンサー） 演題：「いつも心に太陽を」

次年度10月19日（土）～20日（日）に，秋田県ＰＴＡ研究大会大仙大会が行われる。ＰＴＡ活動の一層の推進と大仙のよさを発信する機会としたい。

「大仙ふるさと博士育成」事業（市教育委員会）

「農業」ってかっこいい!!

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　阿部　光教

1　はじめに

本事業は地域と関わる活動を通じて，ふるさとを愛する心を育て，地域の将来を担う人材の育成を目指すことをねらいとして，平成28年７月から始めている。

2　今年度の特色ある取組

今年度は，夏季休業と冬季休業に「『大仙ふるさと博士育成』事業ふるさと農業体験ＤＡＹ」を実施した。これは，子どもたちや保護者が大仙市内の特色ある農家や施設を訪問し，見学や体験活動を行うものである。今年度は次の農家や施設で実施した。

（1）夏の特別企画ふるさと農業体験ＤＡＹ

①７月25日　太田農業振興情報センター
ブルーベリーの栽培の仕方についてのお話を聞き，収穫体験を行った。

②７月30日　（有）アグリフライト大曲
いちごの栽培の仕方についてのお話を聞き，土作り，水やり体験と無人ヘリコプターの見学を行った。

③８月７日　農業組合法人たねっこ
地元の農家の方々と一緒にキャベツの苗植え体験をし，野菜の加工センターの見学を行った。

（2）冬の特別企画ふるさと農業体験ＤＡＹ

①１月10日　農業組合法人たねっこ
地元の農家の方々と一緒に小松菜の収穫体験をし，大豆の選別作業の見学を行った。

②１月10日　しいたけ栽培農家加藤修さん
しいたけの栽培の仕方についてのお話を聞き，しいたけの収穫体験を行った。

③１月11日　太田農業振興情報センター
研修生の方々と一緒にアスパラガス，いちご，ミニレタスの収穫体験を行った。

3　おわりに

「農業ってかっこいい！！」「ぼくも将来は農業をしたい」これは体験を終えた後に，ある児童が発した言葉である。「ふるさと農業体験ＤＡＹ」を通して，市の基幹産業でもある農業の大変さ，すばらしさを身をもって感じるとともに，農業で働く方方との触れ合いを通して，自己のキャリア形成につなげることができた。

本事業を通して，地域を知り，地域に学び，地域をつくる活動を展開し，「地域に根ざしたキャリア教育」の充実を図っていきたい。そのためにも，他では見られない魅力ある活動にしていきたいと考えている。

＜キャベツの苗植え体験の様子＞

グローバルジュニア・マイスター事業（市教育委員会）

Let's Enjoy Communication!

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　牛木　豊

1　事業のねらい

国内外の多様な人々との交流や，ふるさとのよさを発信するなどの活動を通して，児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。

〈対　象〉大仙市内小学校３年生～中学校３年生

2　今年度の成果と課題

○今年度の申請・認定者数（平成31年２月末日現在）
ブロンズ：373名　シルバー：85名
ゴールド：　28名　マイスター：７名

○ＡＬＴが本事業の趣旨を理解し，児童生徒とより積極的に関わることで，コミュニケーションへの意欲を高めることにつながっている。

＜南外小学校　国際教養大学での様子＞

○国際理解に係る学校行事や国際教養大学との異文化交流事業を活用した取組が見られた。

～国際教養大学との異文化交流事業報告書から～

・既習の英語を使って自己紹介することで，自信をもってコミュニケーションを図ることができた。大仙市をアピールすることができ，グローバルジュニア・マイスターのポイントアップにつなげることで，積極的にコミュニケーションを図ろうする意欲が高まった。
・英語を用いてコミュニケーションを図る大変よい機会となり，生徒たちは自分たちの英語を理解してもらえたこと，自分たちの準備したもので喜んでもらえたことに大きな自信を感じ，英語学習の更なる意欲につながった。

○県事業イングリッシュキャンプに参加し，ＡＬＴの方々と会話を楽しむ児童生徒が増えた。

●事業の進め方やポイントの申請等について，学校へのお知らせを続けていきたい。

☆マイスター受賞者に，ＡＬＴによるオリジナルのフォトカード（５枚セット）を，副賞として贈呈！　（直筆の激励メッセージ付き）

子どもたちのコミュニケーションへの意欲向上のため，本事業へのご協力をお願いします。
外国語活動指導案例（学習指導要領移行期間対応）については，市学力向上推進委員会が作成し，各学校に配信しています。

大仙市中学生サミット（市教育委員会）

「小・中・高のつながり」を通して

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　阿部　光教

【中学生サミット全体会平成30年８月17日】

「平成最後の中学生サミット～これまでの活動を振り返り，未来につなげよう～」をテーマに，各校でこれまで実践してきた活動を振り返り，将来の大仙市を支える一員として，重点的に取り組んでいきたいプロジェクトについて協議した。

＜協議の様子＞

生徒からは「地域の行事に積極的に参加することが，地域の方々と深く関わる機会となっている。交流の在り方をより深く探りたい」といった意見が出された。

今年度の中学生サミットでは，大曲工業高校，大曲農業高校の生徒会の代表から地域に関わる取組の紹介や協議内容について全体講評をしていただくなど，小学校の児童会だけでなく，高校の生徒会との「つながり」も深めることができた。

【その他の主な取組】

・ＲＥＶＯ通信Ｎｏ.１～Ｎｏ.３の発行
・避難所開設訓練への参加（大曲南中学校にて）
・中学生サミットポスターの作成と配布
・ＲＥＶＯ11（各校版ＲＥＶＯ通信）発行

大仙市中学校生徒海外派遣事業（市教育委員会）

What a wonderful experience!

大仙市立南外中学校　教諭　佐々木　祥子

出発地である大曲駅に集合した20名の中学生は，これから始まる海外研修への期待と不安が入り交じった表情であった。行きの新幹線や飛行機でも口数があまり多くなかったことを覚えている。

ケアンズ国際空港に到着すると，最初の関門である入国審査が待っていた。英語での入国審査を自分の力で突破した時の，喜びと自信に満ちた彼らの輝く笑顔が忘れられない。

迎えに来たホストファミリーとまだ固い表情で対面し，それぞれのステイ先へと移動した。３日間のホームステイを終えて戻ってきたときには，別れがたくて涙ぐむ生徒もいた。苦労しながらも一生懸命にコミュニケーションをすることで築き上げた絆が感じられた。

また，現地で活躍する日本人へのインタビューを通して，英語学習についてだけでなく，進路や生き方についても考えを深めることができた。次々と質問する姿から，有意義な時間であったと確信する。

本研修を通して，一回り大きく成長した彼らの，これからの活躍に期待したい。

「大仙っ子読書の日」に係る取組事例

つながり，広げる読書の輪

大仙市立太田北小学校　教頭　武藤　浩紀

読書を通して地域や保護者とつながり，その輪を広げていくことを願って活動に取り組んでいる。

１　子どもと地域

地域のボランティアグループと読書支援サポーターによる読み聞かせ会を実施。活動は通年行っており，紙芝居は大好評である。

２　子どもと保護者

「親子で読みたいブックリスト」を活用し，家庭に配布している。また，図書室に特設コーナーを設け，読書支援サポーターを通して市の図書館から取り寄せた19冊の本を貸し出した。

３　子ども同士

〈グループで協力し答え探し〉

図書委員会が企画した読書集会。読書クイズラリーは縦割りグループの対抗戦で，ページをめくりながら答えを探した。教職員による「好きな本紹介」も好評で，早速その本を借りて読む児童もいた。

「大仙っ子読書の日」を中核に，今後も１年間のサイクルで地域や保護者，子ども同士がつながる活動を継続し，読書の楽しさを広げていきたい。

こころのプロジェクト「夢の教室」（市教育委員会）

夢に向かってチャレンジ！

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　田口　匡浩

１　ねらい

スポーツや芸術等，様々な分野の第一線で活躍している方々を「夢先生」として招き，一緒に体を動かしたり，芸術家の技や演奏を実際に鑑賞したりして，スポーツや芸術の素晴らしさや夢に向かって努力することの大切さを知り，自分の夢の実現に向かっていこうとする気持ちを育てる。

２　概要

スポーツ分野から４名，芸術（絵画・音楽）分野から３名の先生方を招き，小・中学校合わせ22校で開催した。また，ピアニスト佐藤卓史氏による「トーク＆コンサート」を新たに小学校で開催した。

３　成果と課題

○夢先生の体験談を聞き，自分の夢について考えるよい機会となった。「一流」に触れることで，よい刺激を受けていた。

●時間内に終了できないことがあり，改めて「夢の教室」の進め方について構想し直す必要がある。

文部科学省委託事業

文部科学省委託：教科等の本質を踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進事業

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　阿 部　光 教

本事業は，新学習指導要領の方向性を踏まえ，育成すべき資質・能力を教育課程全体の中で育むために，教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み，その成果の普及を図ることを目的としている。秋田県教育委員会は２年間（平成30・31年度）にわたり本事業の指定を受け，大館市立城南小学校・大曲小学校・大曲中学校が拠点校として研究を進めている。

大曲小・中学校では，各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせた「深い学び」の実現に向け，児童生徒の学びの深まりにつながる質の高い学習活動を展開するよう授業改善に取り組んでいる。また，「探究活動等実践モデル校」として県の指定を受けている県立大曲高等学校と連携し，小・中学校と高等学校が授業改善の視点を共有しながら研究を進めているところである。

11月23日には，大曲小学校・大曲中学校・大曲高等学校の授業公開を取り入れた学力向上フォーラムを開催し，成果等を県内外に発信することになる。

新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて，市内各校に拠点校の先進的な取組が広がり，授業改善の質的な向上が図られるよう期待している。

文部科学省委託事業（拠点校）

思考の活性化から深い学びへ

大仙市立大曲中学校　教諭　本 道　法 順

1　はじめに

今年度から「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業の委託を受け，本校の研究のキーワードである「思考の活性化」から「深い学び」につながるように取り組んでいる。

2　今年度の主な取組

・授業での生徒の姿をPassive（受動），Active（能動），Deep（深い学び）に分け，文章で表した各教科毎のカード（ＰＡＤカード）に基づいた授業分析と改善につなげる取組
・広く意見交換ができるように小集団によるワークショップ形式を取り入れた授業研究会の工夫

3　成果と課題

ＰＡＤカードを各教科で作成することにより，それぞれの教科の本質を踏まえた「深い学び」についての理解および共有化が図られつつある。

この実践を手がかりに，授業改善に係る研究を更に進めていきたい。

文部科学省委託事業（拠点校）

「学びを深める子ども」を目指して

大仙市立大曲小学校　教諭　田 村　佳久美

今年度から２年間にわたり，標記指定を受け，「深い学びにつなげるための指導の工夫と充実」を研究主題として，実践・研究を進めてきた。

1　取組の概要

「知識や技能を活用したり知識等を相互に関連付けたりして深い理解につなげる活動」を指導の手立てとして，次の３つについて実践した。

（１）話合い活動の充実
（２）自己の変容を自覚できる振り返り
（３）児童の姿からの研究協議

2　成果と課題

○比べて聴き，友達の意見につなげて（関連付けて）話すことができるようになり話合いが深まった。
○視点を明確にすることで「友達の意見で考えが深まった」等変容の自覚を表す振り返りが増えた。
●発問の精選と問い返しの工夫，グループの話合いを全体で深める工夫をする。
●各教科の特質に応じた「見方・考え方」による振り返りを充実させる。

コロンブスの卵アキタ・デ・サイエンス事業（市教育委員会）

「身近にある科学」を体感！

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　和 田　英 範

昨年度まで７年間にわたって行われていた「中学生首都圏大学・総合研究所派遣」を今年度から地域版にリニューアルし，地元秋田及び大仙市で科学を学ぶ本事業が２日間の日程でスタートした。

（１日目）８月１日（水）

中学生15名が参加し，秋田大学で研修を行った。理工学部や教育文化学部の研究室見学や模擬授業体験，天文台見学が，主な内容であった。

〈秋田大学〉

（２日目）10月10日（水）

１回目と同じ中学生15名が地元企業での研修を行った。午前中は「小松煙火工業」，午後は「秋田今野商店」において，施設見学と併せて，その企業ならではの科学関連の研究等について学んだ。

〈小松煙火工業〉

〈秋田今野商店〉

この研修を通して，子どもたちが身近にある科学への興味を深めるとともに，地元のよさの発見につながる機会としていきたい。

授業実践紹介

「小学校外国語活動」（６年生）

必要感のある外国語活動を目指して

大仙市立神岡小学校　教諭　小 松　友 絵

１　はじめに

本校研究主題「自ら問題を発見し，他者との関わりを通して，主体的に解決する子どもの育成」の下，外国語活動では，次の点に留意して実践を行った。

２　具体的な取組

①目的を明示し，児童に必然性のある学習活動を取り入れる。②自分の身近な人々や異文化と積極的に関われるような学習活動を取り入れる。

単元のゴールに，ＡＬＴからの依頼として，本校の教師を紹介する体験的な活動を取り入れた。また，英語の文構造を理解しやすいように，単語を添えた絵カードを色分けで示したり，日本語と並べて掲示したりすることで語順の違いに気付くことができるようにした。その気付きを生かして文作りを行い，紹介カードを完成させた。

３　取組の成果

活動のゴールを設定したことで，先生方にインタビューし，英語で正しく書き表す必要感が生まれ，児童が最後まで意欲的に活動できた。振り返る視点を示し，気付きを中心に記入させたことで，本時のねらいに沿って振り返ることができていた。

「特別活動」（１年生）

主体的に活動する子どもの育成
～第１学年学級活動（３）の実践から～

大仙市立高梨小学校　教諭　佐々木　真夕子

１　はじめに

本校の特別活動の研究主題「人との関わりを通して互いに高め合い，主体的に活動する子どもの育成」を目指し，学級活動（３）「ウ主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」での実践を行った。

２　具体的な取組

学習過程の「つかむ」では，自分事として課題を捉えるため，児童や保護者アンケートを活用した。「さぐる」では，家庭学習のよさを探り，自分の考えを広げられるように，アンケートやインタビューによる２年生の取組を紹介する場面を設けた。「見付ける」では，児童の発言に対して問い直したり，思考の流れを整理して板書したりすることで，話合い活動を焦点化した。「決める」では，自分の課題に合った家庭学習の取組を意思決定するために，自分の現状を振り返る時間を設定した。おうちの人に言われる前にやるなどの意思が発表された。

３　今後に向けて

学級活動（３）のねらいである「将来に向けた主体的な意思決定に基づく実践」という視点を大切にして，強い決意をもって実践することができるよう授業を構想していきたい。

「特別の教科　道徳」（２年生）

「光る言葉」を大切にする授業を目指して

大仙市立大曲小学校　教諭　今 野　靖 子

１　はじめに

本校では，道徳科の重点を「自分の考え方，感じ方を深めるための語り合い伝え合う授業づくり」とし，「光る言葉」を大切にする授業を目指している。

２　具体的な取組

（１）自分との関わりにおいて道徳的価値を考えることができる工夫をする。
（２）自他の考え方や感じ方を交流する場面を充実させる。
（３）自分の思いの変化，または深化されたことが自覚できる振り返りを工夫する。

３　成果と課題

○「自分ならどうするか」と問うことで，主人公と自分とを比べて考えさせることができた。
○意見交換をする際には，「○○さんの考えを聴いて考える」という意識をもたせ，出された考えと関連付けて自分の考えを発表することで，自分の考えを多様な考えの中に位置付けることができた。議論する道徳の第一歩と捉えている。
●振り返りでは，考えの変容を捉えさせる工夫を，更に進めていく必要がある。

「総合的な学習の時間」（５年生）

お米おひさま調査隊
～伝えよう「学び」「感謝」「自分の成長」～

大仙市立太田東小学校　教諭　鈴 木　淳 子

１　はじめに

本校では，総合的な学習の時間を通して，地域の「人・もの・こと」に積極的に関わりながら，自己の生き方を考えていくことのできる児童の育成を目指し，探究的な学習に取り組んでいる。

２　具体的な取組

５年生では，地域と関わる11の共同体験学習を組み入れて単元を構成した。特に「整理・分析」の段階では，集めた情報の処理の仕方を考えさせることで，対他者，対自分，対地域への感じ方が実感を伴って深まるよう工夫した。また，社会科で学習した「米づくりの工夫や努力」を生かすなど，他教科等との関連を踏まえて取り組んできた。

３　成果と課題

○単元や年間を通して自己の成長とその要因を振り返ることで，新たな学びへの意欲や期待を引き出し，「学びに向かう力」の育成につながった。
●探究課題の解決を通して，児童にどのような概念的知識の獲得を目指していくのかについて，更に検討していきたい。

平成30年度　人権ユニバーサル事業

「無意識の差別」をなくすために

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　櫻田　武

1　なぜ「心のバリアフリー」が必要なのか…

「障がいのある人＝かわいそう」といった偏見をなくすためであると考える。新学習指導要領でも「多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への共感や思いやりを子供たちに培っていくことが重要」と示されている。平成30年度は「人権ユニバーサル事業」として秋田県からの委託を受けている。

2　平成30年度事業の特色は…

（1）スポーツ交流＋アート，ボランティア交流

秋田公立美術大学安藤郁子教授の協力の下で，「障がい者アート展示会@スクール」が大曲西中学校，内小友・大川西根小学校で行われた。大曲西中学校では，新たに大曲支援学校との「合同クリーンアップ」も行われた。

車いすバスケットボールクラブとの交流は，大曲南中学校，平和中学校でも行われた。

（2）心のバリアフリー研修会

秋田大学藤井慶博教授の協力の下「心のバリアフリー研修会」を実施した。①大曲南中学校職員研会（11/1）②豊岡小学校ＰＴＡ研修会（12/9）③心のバリアフリーセミナー：はなび・アム（2/10）

（3）心のバリアフリー（障がい者理解）学習会

大曲支援学校教育専門監協力の下，市作成「障がい者理解プログラム」を大曲小学校で実施した。

平成30年度　人権ユニバーサル事業

疑似体験を通して学ぶ障がい

大仙市立豊岡小学校　校長　新田　義孝

1　はじめに

本事業を活用し，秋田大学大学院教育学研究科教授　藤井慶博氏をお招きして，ＰＴＡ学習参観日にＰＴＡ研修会を開催した。

2　内容

「共生社会の実現に向けて～多様性尊重の視点から～」という演題で60分間の講話をいただいた。障がいの疑似体験，障がいの捉え方や障がいのある有名人のお話を通して，障がいに対する理解を深めることができた。

〈疑似体験中の保護者〉

また，様々な社会環境の変化に対応した「共生社会」の実現に向けて，私たちはどう生きるべきかを考えさせられた。

3　保護者の感想

・最初，講話の内容が難しいと思っていたが，話が進むにつれ，引き込まれていった。
・これからますます，共生社会という意味を考える時代になってくると感じた。
・障がい者こそ素晴らしい才能や魅力があり，社会の一員としてしっかりやっていることを知った。

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業（市教育委員会）

水害を想定した「避難所開設訓練」

大仙市立大曲南中学校　校長　後藤　宏

1　はじめに

本校では，10月29日の避難所開設訓練に向けて市総合防災課，市教育委員会と協議を重ねてきた。その中で，「自主防災組織との連携」と「地域の実態に即した訓練」がこれまでの課題だと伺い，この２点をどうクリアするかに腐心した。

2　訓練の概要

「自主防災組織との連携」については，新藤木，八圭，本町の自主防災組織のリーダーの皆様の尽力により，たくさんの方々から参加していただくことができた。また，グループホームの皆様の協力もあり，要配慮者誘導訓練も実施することができた。

＜土嚢積み訓練の様子＞

「地域の実態に即した訓練」については，地域の実態を踏まえ，水害を想定した訓練とした。本校の場合，水害の際は建物の２階以上が避難所と指定されている。そこで，避難者をまずは上の階に誘導する訓練を第１ステージとし，次に水位が下がり洪水の危険が去っても，西日本豪雨の際のように自宅に帰れないケースがあるので，それに備えて体育館に改めて避難所を開設する訓練を第２ステージ，そして最後に，防災の専門家である市総合防災課の郡山管理監からの講演という３部構成にした。

郡山管理監の「提案性のある訓練を」という助言に背中を押していただき，土のう積みやマジックテープの付いた新しいパーティションの導入など職員・生徒が知恵を絞って取り組むことができた。

3　成果と課題

今回の訓練は，学校教育目標「自立・対話・貢献～広い視野をもち，互いを認め合い地域から行動する子どもの育成～」の実現に向けても，とても貴重な体験となった。郡山管理監からは指導講評の中で，初めて水害を想定した避難所開設訓練であったこと，大曲南中学校の校舎の特徴（４階建て，エレベーター有り）を生かした訓練であったこと，訓練を３つのステージに区切ったことなど，今までにない提案性のある訓練であったことなどについて高い評価をいただいた。また，参加した地域の方々からは「地元の人間としては非常にためになる内容で，今まで知らなかったことを知ることができた。最近は，昔ほど水つきがなく危機感がなくなってきているが，危険とは隣り合わせであることを再確認した。」（角間川60代男性）という感想をいただくなど，地域の防災意識を高めることにもつながったと思う。今後の課題として，夜間や冬季，そして地震・台風等の災害への対応の在り方について検討していきたい。地域が一体となった自助・共助の訓練活動は，本校の生徒にとって大変意義のあるものになった。こうした体験の機会を得たことに感謝したい。

第24回大仙市教職員研究集会　職務別研修（市教育委員会）

実践的指導力を高める研修について

大仙市教育委員会　教育研究所長　木 村　百合子

「確かな学力を支える生徒指導の充実」と「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実」の関連を踏まえた研修，また，「特別の教科道徳」についての理解推進など，時代の要請に応じた不断の研修が求められるところである。

本市では，各分野における実践的指導力を高めることを目的とし，教職員研究集会の前半に，次の二つの職務別研修会を実施した。

【生徒指導・特別支援教育合同研修会】
（担当：和田英範指導主事・櫻田武指導主事）

児童生徒の不登校をはじめとする諸問題の背景にある「発達障がい」についての理解を図り，効果的な対処の仕方について学ぶことをねらいとし，生徒指導主事及び特別支援学級担任，学校生活支援員等が合同で研修を開催した。

はじめにきらり支援学校菅原文彦教育専門監から，発達障害のある子どもへの支援について，経験談を交えた講演をいただいた。その後，グループに分かれ２つの事例について事例検討を行った。発達障がいの理解とその対応については喫緊の課題であり，次年度以降も継続して研修を重ねていきたい。

【道徳研修会】（担当：牛木豊指導主事）

「特別の教科　道徳」が小学校において全面実施となった。また，次年度は中学校において全面実施となる。

そのため，今年度の研修会では，『指導計画の作成と道徳科における評価』について，県教育委員会作成の内容による伝達講習を行った。特に，「道徳の時間」が「道徳科」となるに伴って，「変わること」「変わらないこと」「求められていること」は，どういったものなのかについて，改めて確認し合う時間とした。

また，評価については，配付資料を基にしたグループ演習を行った。道徳性に係る児童の成長を受け止めて認め，励ます評価が重要である。実際に評価する際の留意点等について確認することができた。

第24回大仙市教職員研究集会　全体会（市教育委員会）

大仙教育メソッドの更なる推進

大仙市教育委員会　教育研究所長　木 村　百合子

今年度の教職員研究集会は，大仙教育メソッド３年目ということを踏まえ，「大仙教育メソッドの更なる推進～地域活性化に寄与できる子どもの育成～」のテーマの下，開催した。

吉川教育長挨拶の後，だいせん防災教育の視点から消防職員による発表では，緊急出動で見た市民の勇気ある行動から，初動対応の大切さが訴えられた。

国立教育政策研究所指定校事業における大曲南中学校の研究の成果等発表では，持続可能な社会の構築の願いの下，日々の授業実践，それを支える教職員の研究体制と生徒の変容について具体的な例を示した発表がなされた。

〈大曲南中学校の発表〉

また，大仙教育メソッドの推進状況及び中学校区によるふるさと自慢ＰＲ映像の紹介を行い，今後の方向性を確認し合った。更なる推進を目指したい。

平成30年度　教育研究所のあゆみ

１　大仙市教職員研究集会

（１）第23回大仙市教職員研究集会（H30. 4. 24）
　□吉川教育長講話□特色ある取組発表

（２）第24回大仙市教職員研究集会（H30. 7. 31）
　□職務別等研修会
　　○生徒指導・特別支援教育合同研修会
　　○道徳研修会
　□全体会
　　○吉川教育長挨拶
　　○全国消防職員意見発表会入賞者による発表
　　○ＥＳＤの視点に基づいた研究の取組と成果（大曲南中学校）
　　○大仙教育メソッドの推進状況と次ステージに向けて
　　①「大仙ふるさと博士育成」事業の推進状況
　　②「ふるさと探訪ポケットブック」の周知等
　　③「ふるさと自慢ＰＲ」画像による紹介

２　学校訪問

（１）教育委員会訪問…学力向上，「総合的な学力」の育成，生徒指導上の課題への対応，大仙教育メソッドの推進等について状況を把握し，改善の手立てなどを確認

（２）事務指導訪問…各校における会計関係及び学籍等に関する諸帳簿の状況を把握し，それらが適正に管理されるよう支援

３　学力向上対策（学力向上推進委員会の活動内容）

（１）全国学力・学習状況調査及び秋田県学習状況調査の分析結果を提供及び公表

（２）小学校外国語活動指導案例の作成（移行措置対応）

発　行　大仙市教育研究所
〒014-8601　秋田県大仙市大曲上栄町2-16
TEL：0187-63-9400　FAX：0187-63-9401
E-mail：om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp